

南アルプス市立櫛形中学校 学校関係者評価書

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会	令和5年9月29日(金)作成
<p>第2回学校関係者評価委員会（紙上提案・意見等回収）            実施日：令和5年9月21日（木）～ 9月29（金）            評価委員：学校関係者評価委員</p> <p>【学校評議員】 相原千里 横小路淳一 渡邊寿子 梅本澄雄 河野木綿子 中込和彦            【PTA関係】 川西祐香（前会長） 三井奈々恵（会長）            【学 校 側】 上田直人（校長） 吉原仁実（教頭） 矢崎恭央（教頭）</p>	
<p>学校関係者評価委員会 紙上提案内容</p> <p>(1) 学校運営の重点と取組の状況について            (2) 自己評価書について                ① 教職員の自己評価，生徒のアンケート，保護者アンケートの結果について                ② 今後の方針(改善策)について            (3) 学校関係者評価委員会からのご意見            (4) その他            学校関係者評価書作成について</p>	
<p>【学校関係者評価書】 《学校関係者評価委員の意見の集約》</p> <p>I 学校教育目標・学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が一丸となって学校教育目標の具現化のため、生徒の育成に取り組んでいる様子がよく理解できる。教職員が学校教育目標に向かって、積極的に取り組んでいるからこそ、学校全体が活気に満ち、落ち着いている。</li> <li>・すべての項目の評価が上がっていることは、先生方の努力や学校としての組織的な取り組みの成果の表れだと思う。</li> <li>・令和の時代に合った学校改革が叫ばれている今、常に一步先を目指した学校経営が素晴らしい。</li> <li>・アンケートの結果や激励会、紫翠祭、授業参観など生徒たちの様子を見るにつけ、学校全体から熱い熱量が伝わってくる。</li> <li>・校長の先見の明に基づく行動力・指導力、また「応援歌、半世紀ぶりに復活」「Aim High」の合言葉など、櫛中の過去から現在、そして未来につながる素晴らしいものと感動している。</li> <li>・学校の教育活動についてお便りやホームページを通して広報していただいている。学校だけでなく「あやめ」も素晴らしい。今後はさらに読みやすくなるよう工夫を重ねてほしい。</li> </ul> <p>II 学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がもっとよい授業ができるように、工夫をしようという意気込みが立派である。</li> <li>・「学校の勉強がわかる」と答えた生徒が保護者アンケート分析より上回っていることは、生徒自身が理解できていると回答していることから安心できた。自分の経験も含めて、授業が嫌いだと学校生活のその時間が嫌いになってしまうので、ICTを使った学習やグループ学習を進め、生徒たちが「授業がわかる」という授業づくりを今後も進めてほしい。</li> </ul>	

- ・学びあいの授業が進められていて、多くの生徒が自分の考えを伝えるばかりでなく、そうできない生徒に働きかける様子も見ることができた。
- ・入試の壁が見えてくると実際に授業内容がわからないで困っている生徒もいるはずなので、対話を意識した学びあいを今後も授業に取り入れていってください。
- ・授業のめあての提示は、教師が示すばかりでなく「めあて」に気づかせる授業の展開もあると思う。教材に応じて、自然に「気づく」ことも大切であり、教材、教具（ICT 機器）等適切な活用で教育効果を高めていってほしい。実物の提示、現場の実際を見る、人材活用が、より大切である。

### III 生徒指導について

- ・先生方のきめ細やかな配慮・指導の下生徒達が楽しく平穏な学校生活を過ごしている。
- ・学校が楽しいと思う生徒が多く、全体的に日々の取組の効果が向上している。
- ・どの生徒にも日常生活の中で予期せぬ出来事に対し、一人で悩まず気軽に相談できる教師の存在や仲間づくりを、今まで以上にお願いしたい。
- ・諸問題の対応について、学校の体制が整っていて支援や協力ができていると思う。不登校等の問題は、難題が多いと思うが、今後も生徒一人ひとりに寄り添った対応をお願いしたい。
- ・地域で見かける子どもたちの姿や挨拶に、学校の指導の成果を日々感じている。
- ・先生方が苦心しながら不登校生徒へ関わり、努力されていることを承知している。中学卒業後を見据えた関係機関との連携を今後ともお願いしたい。
- ・学校のきまりの「きまり」という言葉には、一律と捉えられることが多い。生活の仕方を学ぶ生活指導は必要であるが、「生徒指導」というより、主体的な覚悟を身につけさせたい。この件については学校評議員会で改めて思いを伝えていきたい。
- ・学校を訪問すると生徒が良く挨拶をしてくれる。学校で生徒が主人公であることが分かる。

### IV 保護者・地域との連携について

- ・地域の情報伝達の役割をしている回覧板を通して、櫛中たより「あやめ」を拝見している。地域住民が櫛中の様子を理解し、より学校が身近な存在に感じられることは素晴らしいことである。
- ・学校の様子を知ってもらうことで、保護者や地域が櫛形中に注目し、様々な視点から応援をするきっかけとなるので「学校だより」は大切である。
- ・「あやめ 14 号」に、紫業祭を参観された方が、延べ 1000 人を超えるとあった。素晴らしい。
- ・学校、教職員、保護者との信頼関係は良好だと思われる。個々の家庭、個々の生徒の実態に即応して、連携を一層密にしてほしいと思っている。
- ・これまでコロナ禍だったが、やっと制限が外され、今後も家庭の参観が増えていくと思う。地域や保護者の願いを今後も大切にしつつ行事等を開催していただきたい。
- ・スリンプルプログラムなど、櫛中の先進的な様々な取組を、もっと地域に発信して欲しいと感じている。
- ・朝ご飯を食べていない生徒が昨年度より減ったことは、学校や家庭で何らかの取り組みをしていると考えられる。子どもの活動の根源となる健康づくりのために学校、家庭、地域で連携をしつつ、地域の課題として取り組んでいきたい。

## V 小中一貫教育・学校の特色について

- ・小中の交流（あいさつ運動や合唱等）を通し、所期の目的の一つである中一ギャップが解消されつつあると思う。
- ・小中共通理解のもと、対話や深い学びへの取組についての実践をさらに推進してください。
- ・小中一貫の移行期にコロナ禍となり、小中交流の活動も寸断しがちであったが、今後は児童・生徒理解のために交流を進め、深めていってほしいと思う。
- ・授業参観の後に PTA・地域・学校で教育課題や教育力向上のための研修や懇談会を設けることで三者と一緒に学ぶ機会が生まれ、特色ある橿形地区の教育になると思う。
- ・様々な場面を見的过程中で、教職員と生徒たちがともに、橿中で学ぶことを誇りにし、「橿中愛」を感じさせてくれる。これぞ、橿中の特色である。
- ・小中で取り組んでいる「スリンプルプログラム」の成果が出ているとあり、安心して話せる・ちゃんと聞いてくれる・茶化さないなどの人間関係づくりにもとても良いと思う。さらに奥の深い活動につながる基礎になると思う。
- ・小中で共通した課題や日標を持ち一貫した教育が徐々に進められていて、実践も多岐になってきた。「深い学び」また Simple プログラムの取組実践等、道は長いと思うが、研修しあい追究してください。
- ・小中交流について、今後「職場体験」の形で交流を図る方法も検討してはどうか。
- ・また一歩先を目指して取り組みを進めてください。
- ・いきいきとした中学生、明るい中学生の姿から、学校教育が丸ごと生徒の姿に写し出されている。その成果を称え、今後も一層協力していきましょう。

記載責任者：橿形中学校 学校関係者評価委員会  
事務局